

# 歴史ゾーンマップ

## ～かごしまの城下町「上町」～ かんまち

鹿児島市が南九州の中心的な町としての地位を占めるようになったのは、島津家6代当主氏久が薩摩の拠点として東福寺城(現在の多賀山公園)を構えたことに始まるところから、上町地域は鹿児島発祥の地とされています。

その後、清水城(現在の清水中学校), 内城(現在の大龍小学校), 鶴丸城と居城を移しながらその城下に町が形成されてきました。

また、城下は錦江湾に面しており、鹿児島港はこの頃から琉球貿易や海上交易の重要な拠点として、大陸文化や欧米の文化を吸収しながら独自の発展を遂げ、他の地域に先駆けて近代化に取り組み、日本の近代工業の礎を築いていったところもあります。

----- 旧市電跡

昭和60年(1985年)9月30日まで、鹿児島市役所前から清水町までの『上町線』が存在していました。

